



2012年、OGでもある安田祥子・由紀さおり姉妹と稽古場で

## 皆川おさむ 子どものために、東京五輪の舞台に!

とても光栄な出来事です」  
 戦時中から一貫して、彼女が思い描いてきた、歌を通して子どもたちに希望を、という理念が、戦後の復興を象徴するオリンピックで大きく花開いたと言えるだろう。  
 ひばり児童合唱団はまた、安田祥子・由紀さおり姉妹をはじめ多くの童謡歌手を誕生させてきた。学校の現場で、運動会や学芸会などで使われていたレコードも、実はひばりに所属している童謡歌手が歌っていることが多かった。  
 また、『文明堂』や『ヤンマーディーゼル』など、誰もが知っているCM曲を歌ったり、ザ・ドリフターズが司会を務めるバラエティー番組などにも多く出演したりと、まさに、昭和のエンターテイメントを陰で支えていたと言っ



1999年、セリーヌ・ディオンの東京ドームコンサートにも出演

### 離れてしまふ気がして決断できない

吉永小百合がひばり児童合唱団に稽古に来たのは、1956年。彼女が小学6年生のときだったという。

「ラジオドラマの『赤胴鈴之助』に出ていたころ、ディレクターに紹介されて来られたのが最初です。その後、伯母が松竹に小百合さんを紹介したことから、映画女優として活躍されることになりました。それ以来、小百合さんはずっと、伯母を恩人だと言っていて慕ってくださって、現在まで何度も稽古場に足を運んでくださっているんですよ」

昨年の和子さんの葬儀のとき、彼女は映画『ふしぎな神の物語』の撮影中にもかかわらず、真つ先に駆けつけて、涙ながらに無言で皆川氏の手を握ってくれたのだという。

戦中戦後を駆け抜けてきたひばりの歴史は、そのまま、児童合唱団に生涯をかけてきた、和子さん自身の歴史そのものでもある。

でも過言ではない。

先日、一周忌を終えたばかりの皆川氏に、その心境を聞いてみると。

「1年間があつたという間でしたね。本人が存在しなくなつただけで、まだ実感が湧かないんですよ。私の気持ちの整理がついていないので、納骨もしていません。お墓は近いんですけど、なんだか家から離れてしまふ気がして決断できないんですよ」



2013年末、2人で年賀状用の写真撮影をしたが、これが最後に……

### 皆川和子さんと合唱団の歩み

1922年	東京都新宿区で生まれる
1943年	荻窪で近所の子どもたちを集めて、歌の稽古を始める。これが、ひばり児童合唱団の起源となる
1944年	神奈川県・山北町に疎開。疎開先でも子どもたちに歌を教える
1946年	NHKラジオ学校放送出演と同時に「ひばり児童合唱団」と名前をつけ、現在に至る
1951年	合唱団がコロムビアの専属となる。映画『二十四の瞳』『東京物語』『秋刀魚の味』の挿入歌を歌う
1952年	団員の安田祥子さんほか計5名が、コロムビアの専属童謡歌手となる
1953年	団員の安田車子さん(現・由紀さおりさん)がコロムビアの専属童謡歌手となる
1964年	東京オリンピックの選手村劇場や東京都芸術祭「トゥーランドット」に出演
1965年	第1回定期演奏会がスタート。特別ゲストとして吉永小百合が出演
1970年	大阪万博の「お祭り広場」に出演
1971年	沖縄民謡の「じんじん」(キングレコード)で、日本レコード大賞の童謡賞を受賞
1996年	和子さんが、第26回日本童謡賞の特別賞を受賞
1999年	セリーヌ・ディオンの東京ドームコンサートに出演
2012年	創立70周年公演を、赤坂のサントリーホールで行う
2014年	8月16日、都内病院で死去(享年92)

発売中の『太陽がくれた歌声』には、合唱団のあゆみだけでなく、吉永小百合の知られざるエピソードも



「伯母の最期を看取れなかったために、また亡くなった実感を持ってないんじゃないでしょうか……」

現在は、和子さんが主宰しているところとは子どもたちの事情も大きく変わってきた。「塾やお稽古ことが詰まっていたり、受験のために小学校高学年で休団してしまったり。今は、伯母と同じやり方」というのは時代的にも難しいと思うので、私は私なりのやり方で、子どもたちの学校や活動を優先しつつも、面白いことができたらいなと思

っています。5年後には、再び東京五輪がありますよね。前回の五輪ではひばりも歌わせていただいているので、半世紀を経てもう一度、子どもたちをオリンピックの舞台に立たせてあげたいですね」

和子さんが愛し育ててきた灯火を、今も皆川氏が守り続けている。

